

- 2010/12/31 UNMIN代表、マオイストの使い走り
- 2010/12/30 研修生仲介業ガイドラインの改定, ネパール労働省
- 2010/12/28 ヤダブ大統領, 議会招集
- 2010/12/24 ネパールのトラ
- 2010/12/23 Facebook, ゾンビのごとく蘇る
- 2010/12/22 プラチャンダ議長の国連ラブコール
- 2010/12/20 中国がネパール警察買収? : ウィキリークス
- 2010/12/18 最高裁に尻ぬぐいさせる議会
- 2010/12/17 パラス元皇太子の勝利
- 2010/12/16 ピストルか偽造パスポートか: シャハ家 v s コイララ家
- 2010/12/15 マオイスト, パラス元皇太子支持
- 2010/12/15 パラス元皇太子, 存在誇示
- 2010/12/14 自治区宣言・赤旗・女商売
- 2010/12/11 ネパール美術展のご案内
- 2010/12/10 イエズス会系学校の拡大
- 2010/12/09 ノーベル平和賞授賞式欠席, 中国の圧力で
- 2010/12/08 ネルーを訴えよ, ロイの反撃
- 2010/12/04 UNMINからAISCへ

## UNMIN代表、マオイストの使い走り

偉大なプラチャンダ議長が12月30日、カリン・ランドグレンUNMIN代表と会い、UNMIN延長について打診した(ekantipur,31Dec)。

ランドグレン代表の回答は伝えられていないが、マオイストはUNMINを2011年5月28日まで延長することを要請する書簡を書き、その写しをランドグレン代表に渡し、しかもその書簡正文をランドグレン代表に国連本部に持って行ってもらうことにしたというから、UNMIN延長についてはランドグレン代表も内諾を与えているのだろう。マオイストのUNMIN延長要請書簡は、1月5日開催の安保理で審議される予定。

状況はよく分からないが、政府側もUNMIN延長書簡をすでに出しているという。あれあれ、役立たずだから出て行け、と大見得を切ったのは誰だったかな？

(注) 政府のUNMIN延長書簡は誤報。ネパール首相は延長拒否書簡を送った(2011.1.5)。 [UNMIN延長拒否、ネパール首相](#)

どうも、国連の方が分が悪い。いくら何でも国連には、アメリカが「テロリスト」リストに掲載しているマオイストと共闘を組むことはできまい。かといって、マオイスト要請を無視して撤退すれば、UNMIN失敗の無惨を世界にさらすことになる。これもできまい。

とすると、UNMINにかわる平和構築メカニズムをつくり、これに切り替えることになるのではないか。役人の得意技、看板の掛け替えである。

もしそうなった場合、われらが日本国陸上自衛隊中央即応集団派遣陸上自衛隊員諸氏の活動の評価と、その継承はどうなるのであろうか？

UNMIN chief leaving for New York tomorrow

EKANTIPUR REPORT

KATHMANDU, DEC 31 - Representative of the UN Secretary-General in Nepal Karin Landgren, on Friday said she will be submitting the Secretary General's report on Nepal, to the UN Security Council in New York for the last time.

Speaking at the Reporter's Club in the Capital, Landgren, who is the chief of United Nations Mission in

GROUPON  
そのストレス  
最大97%OFF?

最大  
97%  
OFF

今すぐ、こちらをクリック!! →

UNMIN代表と日本企業宣伝。戦争も平和もメシのタネ

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2010/12/31 23:37

カテゴリ: [マオイスト](#), [平和](#), [人民戦争](#)  
タグ: [テロリスト](#), [プラチャンダ](#), [UNMIN](#), [国連](#), [安保理](#), [平和構築](#), [中央即応集団](#)

## 研修生仲介業ガイドラインの改定、ネパール労働省

ネパール労働省は12月26日、JITCO(日本国際研修機構)研修労働者仲介業のガイドラインを改訂した。現在の155業者に加え、さらに新規参入を認めるとのこと。

現行ガイドラインでは、研修労働希望者から徴収できる訓練費は1人5万ルピー。かなりの大金だが、それでも仲介業者たちは、足りないからもっとよこせ、20万ルピーにせよ、と要求している。

事前訓練費が20万ルピーにもなれば、あるいは5万ルピーでも裏金が必要なら、ネパール人研修労働者の多くが債務奴隷状態となり、日本に送られることになる可能性が高い。

いま、JITCOからのネパール人研修労働者の求人が、かなりあるらしい。日本の中小企業や農漁業にとって、ネパール人研修労働者の雇用は魅力的なようだ。それらの職種のため、どのような事前訓練が必要で、日本での研修労働により実際にどのような技術が身に付くかは、わたしには皆目見当もつかないが。

## 【参照】

[研修実習生、長崎でも提訴](#)[ネパール研修生仲介業者の大宣伝開始](#)[ネパール人研修労働者の大量採用：日ネ関係は新時代へ](#)[外国人研修労働の違法性認定：熊本地裁](#)[外国人研修制度の欺瞞性：報道ステーション](#)[ネパール人研修労働者受入](#)[ネパール労働者の対日輸出：ネパール労働省](#)[対日ネパール人輸出、あるいは新三角貿易](#)

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/30 00:39カテゴリ: [社会](#), [人権](#)  
タグ: [研修生](#), [債務奴隷](#), [出稼ぎ](#), [外国人労働者](#)

## ヤダブ大統領，議会招集

ヤダブ大統領が12月28日、MK・ネパール暫定首相の助言に基づき、議会を招集した。1月9日開会。切迫した課題は2つ。

一つは、首相選出。17回目の首相選挙が12月中旬に予定されていたが、理由不明のまま先送りされてきた。時間が正統性を生み出すとすれば、MK・ネパール首相の統治もかなりの正統性を得ているはずだが、ネパールには保守主義はなく、こうした大人の知恵を述べる人は全く見当たらない。何が何でも民主的選挙で首相を選出するのだそうだ。というわけで、新春には17回目の首相選挙がにぎにぎしく挙行されるであろう。

もう一つの課題は、UNMIN撤退問題。マオイスト＝UNMIN共闘が成立すれば、UNMINはめでたく派遣延長となる。もしインドが「ノー」に固執すれば、UNMINは追い出され、マオイスト人民解放軍（PLA）は、政府（＝NC＝UML＝軍＝インド）の監視下にはいることになるが、まさかPLAがおとなしく敵の軍門にくだるとは思えない。マオイストが分裂でもしなければ、人民蜂起、人民戦争再開となる可能性が大きくなる。

1月議会の2課題は、いずれも難問だ。絶望的とならざるをえない。ネパール流「いい加減」で何とか乗り切ってもらいたいものだ。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/28 23:49カテゴリ: [マオイスト](#), [議会](#), [政治](#)  
タグ: [ヤダブ](#), [首相](#), [UNMIN](#), [大統領](#)

## ネパールのトラ

ネパールにはトラが109匹いるらしい。Dev Raj Dahal, Election and Conflict in Nepal(FES, Aug.2010)の生息調査結果だ。

ダハール氏によると、ネパールの政治社会構造は、いま大きく変化しつつある。バフン＝チェットリ＝ネワール権力寡占としての伝統的支配は弱体化し、かといって左翼的階級支配に移行することもできず、統治そのものが崩壊に向かいつつある。

その統治動揺について激化してきたのが、民族アイデンティティ政治。新憲法には44民族集団が民族権益を書き込ませようとしのぎを削り、法の外では109武装集団がそれぞれの縄張りをめぐり私闘を繰り広げている。トラは野に放たれたのだ。

「ネパールのトラ」と名乗る集団——タライに多い——もあれば、そうでない集団もある。が、いずれにせよ様々な集団が縄張りをつくり、勝手に税を取ったり、法(ルール)を決めたり、自治州(自治区)首長を任命したりと、あちこちでジャングル化を進めていることは間違いない。

トラを放ち、自然なジャングル秩序自生を待つか、それともオリをつくり、トラを囲い込むか？問われているのは、むしろ教師面をしてネパールにお説教してきた西洋知識人・開発専門家らである。

谷川昌幸 (C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/24 18:09カテゴリ: [民族](#)  
タグ: [知識人](#), [援助](#)

## Facebook, ゾンビのごとく蘇る

Facebookは、登録後すぐその危険性に気づき、登録を完全削除した。いや、完全削除したと思っていた。

▼参考 [Facebookの無限地獄](#) [Facebookの恐怖](#) [Facebookの恐怖・再説](#)

ところが、昨日また下記のようなメールが送られてきた。

「平素はFacebookにご登録いただき、ありがとうございます。・・・Facebookは実名制のソーシャルサイトで、毎日誰かが新たにアカウント登録しています。さっそくFacebookモバイルを使って、友達を探してみましょう。また、Facebook Japanでは、OB・OGを見つけたり、先輩内定者を見つけたりと、就職活動に活用できるコネクションサーチや初心者ユーザーのためのフェイスブックナビといったサービス・機能を新たに提供開始しております。・・・」

ゾンビのごとく蘇るFacebook。底知れぬ不気味さに背筋がゾォとした。

Facebookは、いったん登録したら、おそらくそのデータは永久に保存され、利用され尽くすのだろう。いくら登録削除手続きをしようが、表面上見えなくなるだけで、データ自体は残っており、Facebookが望むときゾンビの如く生き返らせることができるのだ。

Facebookに登録したら、もはやその情報は自分のものではない。自分を自分ではコントロールできない。恐ろしい時代になったものだ。

谷川昌幸 (C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/23 01:13

カテゴリー: [情報IT](#)  
タグ: [プライバシー](#), [Facebook](#)

## プラチャンダ議長の国連ラブコール

マオイスト常任委員会が12月21日、UNMIN任期6ヶ月延長要請のラブレターを国連に送ることを決めた。また、こちらはいまいちはっきりしないが、どうやら制憲議会任期の延長も要求するらしい。

さすが、プラチャンダ議長は偉い。彼以上の政治家は、今のネパールには見あたらない。

プラチャンダ議長は、一方で、バイダ(キラン)派の「人民蜂起」オプションを容認しつつ（つまり保険を掛け）、国連に接近し、しかも特権を失いたくない600名巨大議員団の歡心をくすぐる作戦に出ている。二重三重の必勝作戦。うまい。

国連は追い詰められている。マオイスト提案に乗りUNMIN延長、あるいは類似メカニズムによる継承を図れば、マオイスト＝国連がNC＝UML＝RPPと対決するという構図になる。インドは怒りに決まっているし、「国連＝マオイスト共闘」は西側メディアの好奇の目にさらされることになるだろう。

かといって、もしマオイスト要求を拒絶して撤退し、その結果、人民蜂起(人民戦争再開)となれば、国連介入失敗となり、国連のメンツ丸つぶれ、関係者の経歴に傷がつく。国連は、ネパール平和構築を失敗させるわけにはいかないのだ。

プラチャンダ議長はネアカであり、愛すべき人物だ。と同時に、現実を見据え、合理的に計算し、冷酷果敢に決断し行動できる本物の政治家でもある。もし彼がいなければ、ネパールはおそらく泥沼の内戦継続か、アナーキーか、さもなければ過酷な軍事独裁になっていたであろう。

国連もNC,UMLも、プラチャンダ議長に位負けしている。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/22 10:43

カテゴリー: [マオイスト](#), [外交](#), [平和](#), [人民戦争](#)  
タグ: [キラン](#), [プラチャンダ](#), [現実主義](#), [UNMIN](#), [国連](#), [平和構築](#), [政治家](#)

## 中国がネパール警察買収?：ウィキリークス

ウィキリークス情報を各紙が伝えている。その一つによると、「中国脱出を図るチベット人たちを引き渡してくれる【警察】幹部に中国政府が金銭的報酬を提供している」という。

さもありません、と多くの方が思っているとはいえ、これは在印米大使館（ニューデリー）発国務省宛公文書であり、重さがちがう。

対抗措置として、米印政府もネパール官憲に様々な恩恵をふんだんに与えている、といった某国公文書がリークされるかもしれない。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/20 12:44

カテゴリー: [外交](#), [中国](#)  
タグ: [チベット](#), [警察](#), [人権](#)

## 最高裁に尻ぬぐいさせる議会

ヤダブ大統領が、暫定憲法51条(3)により立法議会を招集した。明日、12月19日午後1時開会。要求したのは、与党利権を満喫しているUML,NC以外の主要政党だ。さて、何人が巨大催事(場)に集まるか？

そんな議会にしびれをきたした人々が、11月28日、最高裁に直訴に及んだ。「憲法法律フォーラム」のC.K.ギャワリ弁護士らが、首相選挙におけるUMLの中立(白票ないし欠席)政策は憲法の精神に反する、首相選挙を最初からやり直せ、という判決を出すことを求める訴えを出したのだ。

この訴えに対し、17日、最高裁はこう判決した。すなわち、唯一の立候補者ラムチャンドラ・ポウデル氏(NC)は、対立候補なしを理由に当選とはされず、当選には過半数票の獲得が必要だ。また、政党に中立を認めている議会議法41、42条は憲法38条、70条(2)(6)に違反し無効である、と。つまり、首相選挙における投票は議員の義務というわけだ。

議会議法の合憲・違憲解釈は微妙であり、軽々に判断はできないが、少なくともこの判決で最高裁がほんらい議会が解決すべき政治問題に割って入り、11月28日の提訴からわずか2週間余で問題をバッサリ一刀両断にし、始末してしまった(しようとした)ことは事実だ。

日本や他の大多数の国々では考えられないことだが、ネパールは司法積極主義の国だ。1994年には、アディカリ首相の議会解散に最高裁が違憲判決をだし、UML政権を葬り去ってしまった。議会政治が成熟していないので、最高裁に直訴をせざるをえないということだろうが、議会で解決できない政治問題を最高裁が本当に解決できるのかどうか、大いに疑問である。

司法、つまり「法の支配」は、ほんらい非民主的なものだ。それを忘れ、司法に尻ぬぐいしてもらうのは、議会制民主主義の自殺行為だ。他人に尻を拭ってもらってよいのは幼児だけだ、ということを忘れてはなるまい。

谷川昌幸 (C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/18 12:53

カテゴリー: [議会](#), [司法](#), [憲法](#), [民主主義](#)  
タグ: [首相選挙](#), [司法積極主義](#), [最高裁](#)

## パラス元皇太子の勝利

王室御用達『人民評論』(12/16)が、パラス元皇太子の勝利を称えている。記事によると、他のメディア報道は「一方的な決めつけ」であり、「スジャータ娘婿の受け売り」だった。「王制廃止後、スジャータ陛下が特別扱いされ、陛下の国家貢献が喧伝されてきた」という。

この調子で、『人民評論』は、『リパブリカ』や『ヒマラヤン・タイムズ』を非難し、最悪は「パラス・シャハ、スジャータ親族殺害を図る」との見出しで大嘘報道をした『ライジング・ネパール』だ、とバッサリ切り捨てている。『朝日新聞』を送ってあげたいくらいだ。

『人民評論』(「ネパール評論」ではない)の認定した事実は、「パラス元皇太子が、外国人たち[スジャータ娘婿ら]により彼自身と元王族とネパール国民が耐えられないほど侮辱されたため、空に向け銃を放つだけにすぎない」。たしかに、パラス元皇太子は保釈金1万ルピー(1万2千円)で解放されたのだから、司法当局はそう事実認定したのだろう。

政治的に見ると、これはパラス元皇太子の勝利である。ピストルを空に向けぶっ放すことにより、元皇太子は法の上にある貴種としての存在を誇示し、ネパール国家の名誉のために闘った愛国者としての名声を取り戻し、ポカラに凱旋した。他方、コイラ家は、数々の腐敗を暴露され、「汚職の総合デパート」、売国奴として今後も糾弾され続けるだろう。

王家はさすがにスゴイ。タブーといってもよい。これと闘うには、相当の覚悟が求められる。

今回、『人民評論』以上に激しく他メディアを攻撃したのが、インテリ・外国人向けとされる『テレグラフ』。インテリ=高位カースト/ブルジョアとすると、これはインテリ層が政党政治から離れる前兆かもしれない。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/17 11:49

カテゴリー: [国王](#), [政党](#)  
タグ: [コイララ](#), [パラス](#), [メディア](#), [王族](#), [腐敗](#), [汚職](#)

## ピストルか偽造パスポートか: シャハ家 v s コイララ家

パラス元皇太子発砲事件は、いよいよミステリーじみてきた。パラス氏はそもそもピストルなど持たず発砲はしていない（つまりNC=インド=コイララの陰謀）という説から、パラス氏に夜中12時に「ジャングルにトラを見に行こう」としつこく誘われたスジャータ副首相娘婿が断ったら皆殺しにしてやるとピストルを向けられたという説まで、実ににぎやかだ。

一方、被害者とされるスジャータ副首相娘婿ラウエル・チョーダリ氏についても、マフィアの親分だとか、外相を利用したパスポート偽造でぼろ儲けしているといった、えげつない暴露攻撃が始まった。

いやはや、すさまじい。マオイストがパラス元皇太子弁護に回ったくらいで驚いては、ネパール観察はつとまらない。

とにかく一つ分かったことは、世界中の人々は例外なく王様、王族が大好きだということ。ベルルスコーニ首相も愛すべき人物だが、ブランド力では王族にはかなわない。

民主主義や共和制は正しいかもしれないが、面白くない。このことを忘れると、足元をすくわれるだろう。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/16 20:43

カテゴリー: [国王](#), [民主主義](#)  
タグ: [コイララ](#), [シャハ](#), [スジャータ](#), [パラス](#), [王族](#)

## マオイスト、パラス元皇太子支持

これだからネパール政治は面白い(少々不謹慎な表現だが)。なんと、われらがネパール共産党毛沢東派(マオイスト)がパラス元皇太子の弁護に回ったのだ。極右=極左共闘！

それも下っ端ではない。マオイスト政治局Kul Prasad K.C.,マオイスト・チトワン代表Anil Sharma,マオイスト・スポークスマンD. Sharmaらが、パラス氏はそんなことはやっていない、と弁護している(Telegraph, Dec 13)。

マオイストによれば、これはインドとNC( कांग्रेस)のでっち上げだという。あるいは、もめ事はあったとしても、他の重要問題を隠すため仕組まれたものであり、パラス氏はむしろネパールの名誉と国益を守ろうとしたのだという。美事な分析だ。プラチャンダ議長のご聖断が待たれる。

こうした王族や国家中枢にかかわる出来事は、なかなか真相が分からない。CIAやRAWの情報がウィキリークスに掲載されるのを待たねばなるまい。あるいは、少なくともPeoples Review報道と比較検証すべきだろう。自衛隊情報なら『朝雲新聞』、共産党情報なら『赤旗』を見るように。

谷川昌幸 (C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2010/12/15 16:19

カテゴリ: [インド](#), [マオイスト](#), [国王](#)  
タグ: [CONGRESS](#), [スジャータ](#), [CIA](#), [皇太子](#), [RAW](#)

## パラス元皇太子、存在誇示

天下の朝日(12/15)が外報面で「ネパール元皇太子を逮捕」と大々的に報道している。本当かなあ？

記事によると、パラス氏はチトワン公園内ホテルで「酒に酔ってスジャータ・コイララ副首相の娘婿と口論となり、短銃を発砲した」容疑で「逮捕」されたそうだ。

しかし、パラス氏は、畏れ多くも日本国の天皇陛下、皇后陛下、皇太子殿下、秋篠宮殿下・妃殿下に大歓迎された、立派な方だ。そんな高貴な方が、下世話な卑俗・単純な動機で、酔っ払ってピストルをぶっ放すなどといったことをなさるはずがない。

そもそも王族は法の上にあるものであり、下々のできないことを自在にやることをもって本質とする。人気歌手を轢き殺すのも平気だ。轢き殺されたのは雷に打たれたようなものであり、運が悪かっただけ。だから、副首相娘婿にピストルをぶっ放したのも、もし事実なら、パラス氏がまだまだ貴種であり法の上にあることを天下に知らしめるためであろう。

さて、パラス元皇太子は、本当に逮捕・起訴されるのか？ 日本国天皇家と長年の親交がある名家であり、ピストルをぶっ放したくらいで、天皇家(とその応援団)が冷淡・冷血に見捨てるはずがない。チトワンで優雅な避寒別荘生活でも始めるのではないかな。

### ■皇室に大歓迎されるパラス皇太子殿下



Their Royal Highnesses the Crown Prince and Crown Princess with His Imperial Majesties Emperor Akihito and Empress Michiko of Japan at the Imperial Palace, Wednesday.  
ID Photo



ID Photo (Rising Nepal, Jul.11)

【参考】[自衛隊派遣](#)、[皇太子歓迎以上の愚策](#)

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2010/12/15 11:57

カテゴリ: 国王, 外交  
タグ: 王制, 皇太子, 天皇

## 自治区宣言・赤旗・女商売

マオイストは12月12日、シンドパルチョーク、ラスワ、ヌワコット(一部)をHelmu自治区と宣言し、Nima Lamaを代表(coordinator)に任命した。タマサリン自治州内の自治区となるようだ。自治州には自決権も認められる。これはスゴイ！一国二政府どころではない。ネパール爆裂だ。

それを報道するメディアもまた、飛んでいる。巨大マオイスト赤旗の下に、性的（セクシー）中国女性紹介サイトの宣伝を掲載している。赤旗を振り振り女商売だ。

槌鎌の赤旗は、いまや女商品化のトレードマーク。それを許す中国は、さすが超大国、この程度のことに目くじらを立てることはない。この旗の下に某自治区が表示されると、烈火のごとく怒り、こんなちっぽけな資本主義の走狗などあつという間に圧殺してしまうであろうが。

The screenshot shows a news article from 'KAMAL DEV BHATTARAI' dated 'KATHMANDU, DEC 13'. The article text reads: 'The UCPN (Maoist) declared Sindhupalchowk, Rasuwa and certain parts of Nuwakot as Helmu autonomous region on Monday. The party has appointed Nima Lama the coordinator of the self-proclaimed region.' To the right of the article is a large advertisement for 'Chinese Dating and Singles!' featuring a woman in a red qipao. The ad lists features: 'Meet 1000's of Chinese singles', 'Over 18 million customers across the Cupid Media network', 'Access to chat, email, video and instant messaging features', and 'Its 100% free to join!'. Below the ad is a 'Date Sexy Chinese Women' section with a link to 'www.ChineseLoveLinks.com/Dating' and a gallery of four women's photos with their names and ages: '青島, 23 China', '江蘇省, 28 China', '河南省, 25 China', and '安徽省, 28 China'.

赤旗の下のDate Sexy Chinese Womenをクリックすると右の性的中国女性紹介となる。ekantipur, Dec 14.

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2010/12/14 11:00

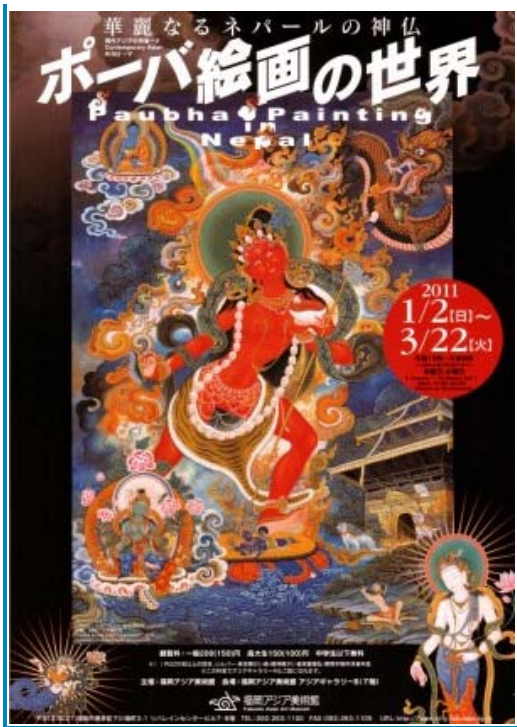
カテゴリ: 文化, 人権, マオイスト  
タグ: ジェンダー, 赤旗, 自治州, 商品化

## ネパール美術展のご案内

- 華麗なるネパールの神仏：ポーバ絵画の世界 (2011/1/2-3/22)
- 神と自然のコスモロジー：ネパールの美術 (2011/1/2-)

■ [福岡アジア美術館](#)





投稿者: Tanigawa 編集  
2010/12/12 11:59

カテゴリ: 宗教, 文化  
タグ: タンカ, ネパール美術, ネワール, ポーバ

## イエズス会系学校の拡大

ネパールでは、世俗国家への転換を追い風に、キリスト教布教が進んでいる。たとえば、イエズス会は、カトマンズの山手にエリート校「聖ザビエル校」をつくり運営しているが、ここに4階建て豪華校舎の増築がなり、12月3日竣工式をした。

「神のために生き、ネパールを導く」

これをモットーに、1999年には東ネパールのタライに2校開校し、またボカラにもすでに土地を確保し、学校をつくる予定とのこと。

マオイスト革命のおかげで、ネパールは宗教的にも大きく変わり始めた。



聖ザビエル校HPより

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2010/12/10 21:31

カテゴリ: 宗教  
タグ: イエズス会, キリスト教, ザビエル, 教会

## ノーベル平和賞授賞式欠席、中国の要請で

ネパール政府は、中国政府の要請に応え、ノーベル平和賞授賞式欠席を決定した。各新聞は中国の「圧力」と伝えているが、ネパール側からすれば、これは有力な外交カードであり、ネパールはそのカードを国益の観点から合理的に行使したにすぎない。

ネパール外交はいつも非常に合理的である。たとえば、かつて日本が国連安保理入りに躍起となっていたころ、森首相がはるばるネパールまで出向き、平身低頭ひたすらお願いしたにもかかわらず、ネパールは日本には1票を入れなかった。日本に1票入れるよりも、中国に恩を売っておいた方がネパール国益に叶うからだ。日本なんか、何をされても、

援助停止の勇氣すらない、と見くびられてしまっているのだ。

またネパールは、中国から平和友好条約(1960)と文化協力協定(1964,1999)の改定を要求されている。これもネパールにとっては格好の外交カードである。受け入れれば、中国からの援助がさらに増え、インドに対する発言権が強化される。受け入れなくても、受け入れるぞと脅せば、インドから譲歩を引き出すことができる。どちらにせよ、ネパール国益に叶うのだ。

ネパールは、なかなかどうして、たいした外交巧者である。「中国の圧力」などといった一面的な見方をしていると、足元をすくわれ、みっともないことになるであろう。

【追加】(2010/12/10)  
ノルウェイ大使兼任の駐英ネパール大使が、ノーベル平和賞授賞式欠席の訓令は受けていないと語った。いつものように、ギリギリの綱渡り、印中両大国を天秤にかけているのだ。インドは参加決定、さてネパールはどうするか？

【追加2】(2010/12/11)  
ネパールは、出席したのか？ どの新聞も、だんまり、いまのところネパールの出欠は分からない。ネパール流高等戦術かもしれない。

【追加3】(2010/12/12)  
ネパールはどうやら欠席のようだ。

「英BBC放送やAFPによると、最終的に、中国を含めロシア、キューバ、ベネズエラ、スーダン、サウジアラビア、イラク、イラン、エジプト、カザフスタン、パキスタン、アフガニスタン、ベトナム、スリランカ、**ネパール**、フィリピンなど19カ国ほどが欠席したとみられる。」(産経, 12/12)

「2010年12月10日にオスロ市庁舎にて行われた式典においては、17ヶ国が、中国に配慮するために欠席した。欠席した国は、中国、ロシア、カザフスタン、チュニジア、サウジアラビア、パキスタン、イラク、イラン、ベトナム、アフガニスタン、ベネズエラ、エジプト、スーダン、キューバ、モロッコ、スリランカ、**ネパール**である。」(ウィキペディア「ノーベル平和賞」)

“Nepal? don't know whether this country attend....but has been supportive of China”(Awakening China, Dec 12)

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2010/12/09 18:46

カテゴリ: [インド](#), [外交](#), [中国](#)  
タグ: [ノーベル賞](#), [国益](#), [森首相](#)

## ネルーを訴えよ、ロイの反撃

アルンダティ・ロイは、セミナー“Azadi-the Only Way”(Delhi, 21 Oct 2010)において、「カシミールがインドの本来的部分であったことは一度もない」「カシミールはインドからのazaadi (自由)が必要だ」と語ったため、反インド扇動罪 (sedition) 容疑で訴えられている。この発言は人々の間の敵意を煽っているというのだ。

ロイ発言の詳細な内容は、後日紹介するとして、ロイの魅力は何と云っても、そのあふれるばかりの機知とユーモアだ。セミナーで発言を求められたとき、聴衆に向かってロイはこう話し始めた。

ロイ: 皆さん、靴を投げたい人は、いますぐ投げて下さいネ……

会場から: 私たちはもっと上品だよ……等々

ロイ: ああ、それなら結構、安心しました。お上品も時によりけれどもですけれどもネ。え〜と、それでは……

「靴投げ」は、もちろん侵略地イラクの記者会見で靴を投げつけられたブッシュ元大統領を皮肉ったもので、これによりロイはこれからの話がインド体制派の「靴投げ」を招きかねない「過激な」ものになることを予告したのだ。うまい。

また、このAzadiスピーチが予想通り体制派からの「靴投げ」を招き、デリー裁判所がFIR受理を命令すると、ロイは「ネルーもまた訴えるべきだ」(Outlook India, 28 Nov)を発表し、ロイとまったく同じことを、より過激な表現で繰り返し明言したネルーの言葉を抜粋し、反撃した。

ネルーの発言

「争いのある領土や州の帰属は人々の意思により決定されるべきであり、われらはこの立場を堅持する。」(31 Oct 1947)

「カシミールのことはその人々が決定すべきだ、とわれわれは宣言した。」(2 Nov 1947)

「カシミール帰属は、住民投票で決定されるべきだ、と私は繰り返し表明してきた。」(21 Nov 1947)

他に同趣旨の発言11例を引用。

攻撃に対して攻撃者側に反撃させる。実にうまい。まめだ。こんな魅力的な「過激派」を敵に回して闘うのは、体制派には大変だろう。インド進出（侵入）に躍起の日本企業が、再びロイの厳しい批判の俎上にのせられるのも時間の問題である。

谷川昌幸 (C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/08 11:09

カテゴリ: [インド](#), [民族](#)  
タグ: [カシミール](#), [ネルー](#), [自治](#), [Roy](#)

## UNMINからAISCへ

UNMIN任期は2011年1月15日まで。今回はどうやら本気らしい。UNMIN撤退後、その仕事を継承するのが、AISC(Army Integration Special Committee)。その委員長（ないし議長）に、Balananda Sharma氏が11月30日任命され、さっそく活動計画を発表した。

AISC：PLAの武器と戦闘員の管理監視

- (1)活動調整センター(Operation and Situation Centre)  
幹部治安要員 16 (国軍4, 警察4, 武装警察4, PLA4)  
職員 7 (常勤3, 予備4)  
宿営所要員 12 (7宿営所に各1, 21宿営所支所に5)
- (2)宿営所管理運営局

シャルマ委員長によると、各党の合意が得られれば、UNMINからの業務引継は1月以内に完了するという。あれ！とびっくりするくらい、よくできた話だ。こんなに簡単にいくのなら、もっと早くやればよいのに、そこは外交上手のネパール、国連から最大限引き出してから、ということだろう。

しかし、本当に、うまくいのだろうか？問題はPLA（人民解放軍）の指揮権。マオイストは、統合復帰計画が確定し、手続きが終了するまでは指揮権を渡さないといっている。当然といえば当然だ。

現在、マオイストの要求は、PLA19,000人の半分を国軍に統合、残りの半分は社会復帰というものだ。NCやUML、そして国軍にこれが呑めるかどうか？


マオイストがPLA指揮権をネパール政府に委譲すれば、当然、平和プロセスは大きく前進する。もしそうでなければ、UNMIN撤退は大混乱を引き起こす可能性が高い。どうなるか、ここ1ヶ月、注視していきたい。

谷川昌幸(C)


投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2010/12/04 16:32

カテゴリ: [平和](#), [マオイスト](#)  
タグ: [UNMIN](#), [重](#), [停戦監視](#), [人民解放軍](#)

## 長崎大学大学院学生募集



平成二十三年度長崎大学大学院  
教育学研究科第二次学生募集



拓く

試験期日: 一般選抜 平成23年2月5日(土)  
合格発表: 平成23年2月28日(月)10時  
入学手続き: 平成23年3月7日(月)~3月9日(水)

【教科実践専攻(修士課程)】募集人員8人

- 言語文化と社会の教育コース (国語専修免許プログラム, 社会専修免許プログラム)
- 数理の教育コース (数学専修免許プログラム)
- 生活と身体 of 教育コース (技術専修免許プログラム, 家庭専修免許プログラム, 保健体育専修免許プログラム)
- 芸術と文化活動の教育コース (音楽専修免許プログラム, 美術専修免許プログラム)

【出願期間】(本研究科所定の出願書類等を使用のこと)

[2年, 3年プログラム申請者]平成23年1月11日(火)~平成23年1月17日(月)[土・日曜日は除く]

【資料請求, 問い合わせ先】長崎大学教育学部学務係  
〒852-8502 長崎市文政町1番14号 電話 095-819-2266

※ 出願書類等の請求は, 封筒に「大学院教育学研究科学生募集要項請求」と書き, 宛名明記の返信用封筒(角形2号 190円切手貼付, 送達の場合760円切手貼付)を同封してください。

▼2011年1月17日まで掲載

投稿者: Tanigawa 編集  
2010/12/03 21:19

カテゴリ: 教育  
タグ: 大学院